

学内インターンシップ

ピア・サポーター (学生チューター)

育成・就業プログラム

参加者募集!



概要

いろいろな形で数理工教育研究センターを利用する学生に対して、数理についての学習アドバイスや学習指導等を行うピア・サポーター (学生スタッフ) の業務を通じて、学習支援者としての指導力や、数理の学力、コミュニケーション能力等を身につけ、自らの成長を実感し、今後の進路に活かすための「自己研鑽プログラム」です。

応募してほしい人

1. 数学が好きで、人に教えることにより、自分を磨きたい学生
2. 数学の基礎学力を高め、専門での応用を真剣に考えている学生
3. 数理能力を研鑽し、数学の教員免許や数学検定などの資格を取りたい学生
4. 将来、教員を目指している学生
5. 継続的に (ほぼ1年間) このプログラムに参加する熱意のある学生

プログラム実施説明会

日時:平成 28 年8月5日 (金) 3時限 (13:00~)

場所:23・514

数理の基礎能力の再確認、教える経験、学生同士の学びあいを通して、自分自身をステップアップさせてみませんか?

★★★ 興味のある学生は、是非、説明会に出席してください。★★★

★当日は 10:30~、23・514にて前学期ピア・サポーターを経験した学生の成果発表会を行います。

ピア・サポーターを経験した学生の経験談を聴くことができます。

プログラム

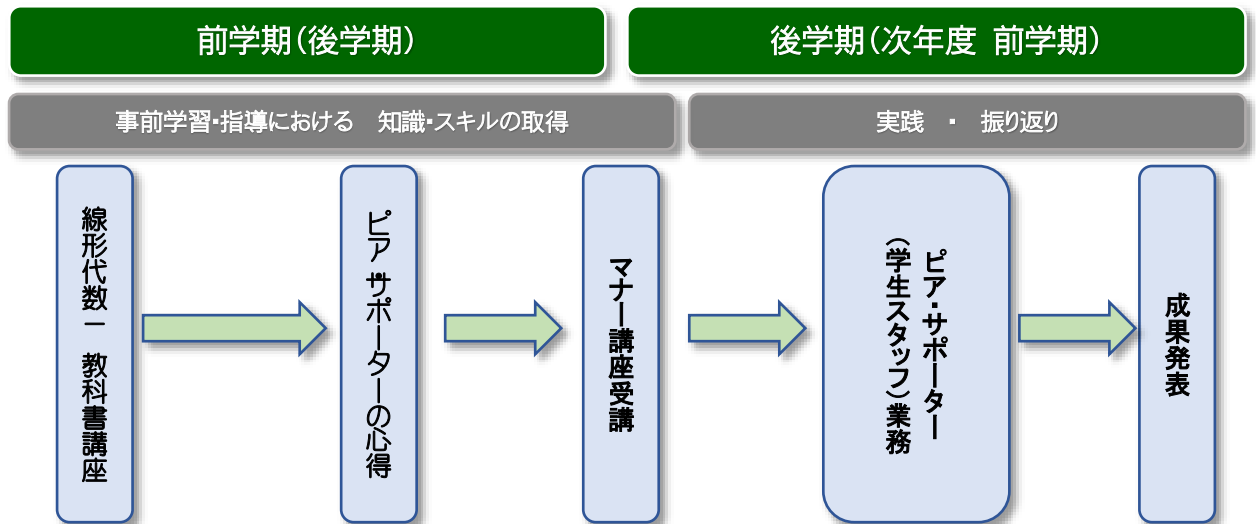
【平成 28 年度 後学期】 事前準備

- ①「線形代数Ⅰ」の教科書講座を受講
- ②「ピア・サポーターとしての心得」の講習会を受講
※ 手引き「ピア・サポーターへの手引き」を配付予定

【平成 29 年度 前学期】 ピア・サポーター業務スタート (学生スタッフとして雇用)

- ①「授業支援講座 (Jプロ)」の講師
- ② 数理工教育研究センターでの質問に対する個別学習指導
- ③ 活動結果 (自己の成長の記録) の発表

プログラムの流れ



事前準備 【平成 28 年度 後学期】

自宅学習を中心とした『教科書講座』を受講します。

【学習について】

- (1) 受講者は「線形代数Ⅰ」の教科書問題(問)に沿って作成された「進捗度チェック表」に自宅学習の予定(日付)を記入し、学習スケジュール案を作成します。
- (2) 受講者は、自宅学習用にノートを準備し、「進捗度チェック表」に沿ってノートに教科書問題を解いて講座に出席し、学習に取り組んでもらいます。
- (3) 教室では各自のノートを教員がチェックし、質問への対応や分からなかった問題の解説を行います。各問題が解き終わったら、「進捗度チェック表」に日付を書き込みます。
- (4) すでに一度問題を解いている人も再度解いてもらいます。

【学習・講座期間】

- (5) 10月上旬から1月下旬まで原則毎週1回、全体では12回程度で、1回あたり60分程度の講座です。学習時間帯は応募者の都合に合わせて別途定めます。予定として、2グループに分けることを想定しています。時間に制約がある場合、個別での教員による学習指導も行います。

【ピア・サポーター業務の心構えについて】

- (6) 養成講座期間中に、「ピア・サポーターへの手引き」でピア・サポーター(学生チューター)としての心得について講習を行います。

実践・振り返り 【平成 29 年度 前学期】

主として「授業支援講座(Jプロ) 線形代数Ⅰ」の講師、センター利用学生への学習支援サポート担当
(時給 800 円)

【実施内容】

- (1) 「線形代数Ⅰ」の「授業支援講座(Jプロ)(平成29年4月~7月全12回開催)」の講師(原則2人ペア)を担当してもらいます。 ※ 講座には教員がアドバイザーとして在席します。
- (2) 授業時間の空き時間に勤務可能です。
- (3) 指導能力、状況に応じて、センターへ質問に来る学生の質問に対する個別指導を担当することもできます。

【事務作業】

- (4) 授業支援講座(Jプロ)での学習指導および個別学習指導を行った際には、センター所定の「学習指導記録書」に記入し提出してもらいます。

【就業力の自己診断】

- (5) 学内インターンシップの「就業力育成評価システム」に登録し、開始時の自己評価を入力してもらいます。
- (6) 「就業力育成評価システム」にそれまでの成果を踏まえ、自己評価を入力してもらいます。
- (7) 養成講座~実践までのプログラム終了時(年度末)に成果発表会を開催します。